



▶ 第40回日本肩関節学会学術集会の開催を終えて

第40回日本肩関節学会 会長 黒川正夫 (大阪府済生会吹田病院)

第40回日本肩関節学会学術集会および第10回肩の運動機能研究会(会長 森原 徹)を昨年9月27日-28日にウエスティン都ホテル京都において開催させていただきました。幸いにして当日は晴天にも恵まれ、約1,500名の参加者をお迎えし、無事終えることができました。日本肩関節学会理事長井樋栄二先生を始め、理事、監事、評議員の先生、名誉会員の先生には一方ならぬお世話になりました。また日本肩関節学会会員の先生、肩関節学会、肩の運動機能研究会にご参加いただいた



先生にはシンポジウム、モーニングセミナー、ランチョンセミナー、ハンズオンセッションなど多くの企画に講師、座長としてご協力をいただき誠にありがとうございました。本誌面を借りて心から御礼申し上げます。

本学術集会では肩関節学会の40年の伝統、歴史を踏まえ、次の10年の礎となる会でありたいと思ひ多くの企画をいたしました。

基調は腱板断裂の診断から治療までをわかりやすくなおかつ科学的根拠に基づいて明らかにすることを意識して、診断として“腱板断裂：画像診断を治療にどう生かすか”(シンポジウム)、治療として“腱板断裂：一次修復不能な場合の対処”(パネルディスカッション)、学会の最後に“腱板断裂術後リハを科学する”(シンポジウム)を“肩の運動機能研究会”との合同シンポジウムとして行いました。またKSES会長のSang-Hun Ko先生には“腱板広範囲断裂の関節鏡視下手術”をご講演いただき、この一連の企画により腱板断裂の診断から治療、リハビリテーションまで少し整理ができたかなと思う一方で、まだまだ科学的根拠が不足していることを実感し、今後の課題も明確にできたかと思ひます。

また私は最近骨粗鬆症に興味を持ち、“老化”が骨粗鬆症性脆弱性骨折や腱板の変性・断裂も含めて肩関節診療のキーワードとして重要であるとの認識を持つに至りました。“肩関節周辺骨折の最小侵襲治療”(パネルディスカッション)、ランチョンセミナーの“上腕骨近位端骨折の病態と治療戦略”(仲川喜之先生)、“高齢化社会における肩関節周辺骨折 - 骨折の連鎖を断つ - ”(今井晋二先生)とあわせて肩関節周辺骨折の治療の今後の考え方を示す一助となったと考えております。

私の肩関節外科へのかかわりはちょうど30年になり、関節鏡が肩関節外科に応用されるようになったのもほぼ30年前のことで、私も30年前から肩関節鏡を始めておりました。そこで米田稔先生には“日本における肩鏡視下手術の過去現在未来”(ランチョンセミナー)をお願いし、Jeffrey Abrams先生(ASES会長)には“肩関節鏡視下手術のTopics”(特別講演)についてご講演いただきました。私の30年も振り返りながら、お二人の先生のご講演を伺い、肩関節鏡および鏡視下手術の著しい進歩と今後の課題が理解できたと思ひます。

一方で今年の Topics である Reverse Shoulder Arthroplasty について、Jaap Willems 先生には合併症を中心に講演をお願いしました。最近さまざまなコンプライアンス違反が続出しているところであり、中川照彦先生の“肩関節手術における周術期のリスクマネージメント”とともに、肩関節手術におけるリスクマネージメントの重要性を確認でき、時宜を得た企画であったと自負しております。

理事長講演では井樋栄二先生にこれからの日本肩関節学会の方向性がグローバルなものでなければならないという熱い思いを示していただきました。

今回の学術集会では3つの会場で会場ごとにテーマを設定し、基礎研究やトピックス、若手医師の育成などの異なった目的を持ちながら構成してみたつもりでしたが、いかんせん演題数が多くポスターが半分以上になってしまったこと、評議員の先生にお願いしている抄録の査読が演題の選択に十分生かしきれなかったことなど学術集会の在り方についても課題が残りました。

学術集会の翌日9月29日（日）午後には市民公開講座として工藤公康氏（元プロ野球投手、47community）を招いて“未来ある野球少年へのメッセージ - けがなく元気に野球を続けるためにはどうすればいいのか - ”を企画いたしました。同志社大学寒梅館ハーディーホールをお借りして約800名の少年野球の選手や指導者、医師、理学療法士、アスレチックトレーナーなどの皆さんとともに工藤さんの直接熱血指導を拝見しました。工藤さんの投球フォームの特徴を的確に素早く見抜く能力とわかりやすい指導に感銘を受けました。

学会運営に関してはなにかと不行き届きな点もあったかと存じますが、何卒ご容赦賜りますようお願い申し上げます。

また京都府立医科大学の上肢班、肩関節グループのスタッフの先生、大阪府済生会吹田病院のスタッフの皆さんには、本学術集会の開催にあたり多大なご協力をいただきました。本誌面を借りて御礼申し上げます。

会員の皆さん、それを取り巻くコメディカルの皆さんには熱い議論をいただきましたことに感謝し、重ねてお礼申し上げます。



第40回日本肩関節学会にて

▶ 次期学術集会会長あいさつ

第41回日本肩関節学会 会長 森澤佳三 (特定医療法人 整肢会 副島整形外科病院)

この度、第41回日本肩関節学会学術集会を2014年10月24日(金)、25日(土)の二日間、佐賀市文化会館で開催させていただきます。この歴史ある世界に誇れる本学会を開催させて頂くことは大変名誉なことと光栄に存じます。開催地の佐賀県は福岡県と長崎県の間としか認識されていない小さな県ですが、その良さを皆様知ってもらい良い機会と考え、何とか会員の皆様に役立つ学術集会となるように万全の態勢で臨みたいと思います。

今回の学術集会のテーマは Globalization 日本から世界へ です。このテーマを取り上げたのは井樋栄二理事長が第40回日本肩関節学会学術集会の理事長講演で述べられたこれからの日本肩関節学会の方針と私のこれまでの経験に基づいたものです。私が最初に肩関節外科の指導を受けたのは福岡大学の故高岸直人先生で1984年のことでした。その後、1988年に文部省在外研究員として英国、米国へ、2003年には英国、独国で様々な肩関節疾患の診断法や手術などを経験しました。又、多くの国際学会に参加、発表する機会にも恵まれ、それらの経験で日本より諸外国が秀でた部分と日本が諸外国より優っている部分が存在していることを学びました。その際に相互の情報交換、情報発信の機会を増やす必要があり、日本側からもっと国際学会での発表や英語論文への投稿をするべきだと考えておりました。日本肩関節学会会員の皆さんに国際化の重要性を理解し実践していただきたいと考え、今学会において初めて英語のみのシンポジウムを企画しました。時間は二時間足らずの短いセッションですが、発表も討論も全て英語で行うもので座長も日本人と外国人の二名で行う予定です。演題は「広範囲肩腱板断裂の治療戦略」として現在日本で行われている代表的な治療方法と海外の国々で行われている様々な方法を報告していただき、その報告に対する討論を行う形式です。海外で頻繁に行われているリバーズ型人工肩関節と日本で工夫された様々な治療方法との比較に熱い討論が行われることを期待しています。このことが若い会員の皆様の国際化への第一歩に繋がり、近い将来世界の肩関節医療の発展に繋がることを期待しております。



欧米並びに韓国から遅れたもののこの度ついに日本でもリバーズ型人工肩関節が使用できるようになりました。現時点ではトルニエとジンマーのリバーズ型人工肩関節が承認されていますが、今後その他のメーカーの製品も承認されるものと考えられます。これらのリバーズ型人工肩関節が適切に使用され、良好な治療結果を得るために今学会ではその理論や手術手技等について多くの特別講演やスポンサー講演、ワークショップ、ハンズオンを企画します。多くの会員がリバーズ型人工肩関節についての知識を得ることが出来るように準備を進めています。

今学会の主題としては「腱板断裂の続発症」「肩周辺の神経障害」「腱板断裂の観血的手術の利点」「肩周辺骨折の新しい治療」を、コンバインド・セッションでは「肩鎖関節脱臼の治療 保存的治療・観血的治療」などを想定しています。

また、2014年は日本肩関節学会創設40年に当たります。これまでの先輩方の輝かしい足跡に関する記念講演会と記念展示を企画しております。会員の皆様で懐かしい資料や写真などをお持ちの方々は日本肩関節学会事務局まで情報の提供をお願い致します。

佐賀県には世界的に有名な陶器の里、有田や伊万里があります。また、弥生時代の巨大集落で知られている吉野ヶ里遺跡もあります。学会の前後に訪ねられてはいかがでしょうか？。食の面では有明海に生息する独特な海産物と玄界灘の海産物を同時に楽しむことも出来ます。秋深まる季節に九州佐賀県で会員の皆様と充実した時間を共有し、美味しい佐賀牛や佐賀県産の日本酒やワイン等を一緒に堪能することができればと楽しみにしております。多くの会員の御参加を心からお待ちしております。

▶ トラベリングフェロー

2012 JSS-SECEC トラベリングフェロー帰朝報告

三幡輝久 (大阪医科大学 整形外科)

2012年9月19日から10月19日まで、JSS-SECEC トラベリングフェローとしてヨーロッパを訪問させていただきました。韓国の Jin Young Park 先生 (右図) とともに Dubrovnik で開かれておりました SECEC annual meeting に参加したのちに、(1) Hospital de l'archet II in Nice, France (Dr. Pascal Boileau, 2012/09/24 ~ 26)、(2) Centre Orthopédique Santy in Lyon, France (Dr. Arnaud Godeneche, Lionel Neyton, 2012/09/27 ~ 30)、(3) Istituto Clinico Humanitas in Milano, Italy (Dr. Alessandro Castagna, 2012/10/01 ~ 03)、(4) ATOS Klinik in Heidelberg, Germany (Dr. Peter Habermeyer, 2012/10/04 ~ 7)、(5) St Gall Hospital in St Gallen, Switzerland (Dr. B Jost, 2012/10/08 ~ 10)、(6) University of Nottingham, England (Dr. Angus Wallace, 2012/10/11 ~ 13)、(7) Wrightington Upper Limb Unit, Manchester, England (Dr. Lennart Funk, 2012/10/14 ~ 17)、(8) Hospital Del Mar, Barcelona, Spain (Dr. Carlos Torrens, 2012/10/18 ~ 19) を訪問しました。



Jin Young Park 先生と私。Lyon のレストランにて。



Lennart Funk 先生と私。Wrightington clinic にて。

普通であればお話しすることも難しいようなご高名な先生方と知り合いになることができ、本当にありがたいと感じております。

特に Dr. Funk (左図) は日本人に近い考えをもっておられ、私の診断方法や治療方法にかなり興味を持っていただきました。ICSES の際には大阪で2日間過ごされ、私の手術見学に来られましたし、2013年12月には Manchester に招待していただき、arthroscopic superior capsule reconstruction の workshop と講演をさせていただくことになっております。

今後はこの経験を生かし、日本肩関節学会に恩返しをさせていただけるように、さらに頑張っていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

2013 Europe-Asia Travelling Fellowship

Kerem Bilsel (Bezmialem Vakif University Medical School, Istanbul, Turkey)

I visited Japan as an ESSSE/SECEC Europe-Asia Travelling Fellow between 23 September and 06 October 2013. I started my fellowship in Hiroshima then passed to Kyoto (40th Annual meeting of JSS) and went to Sendai, Sapporo and Fukuoka respectively. I met a lot of excellent skilled Japanese surgeons and I experienced an incredible scientific background. This was also an outstanding fellowship exchange program for recognizing the Japanese culture. The hospitality and friendship was



左から 3 人目: Kerem Bilsel 先生 左から 4 人目: Frank Martetschläger 先生

great. I also tasted a lot of delicious Japanese foods and drinks on every special city. I would like to thank SECEC, JSS and KSES to be selected as an ESSSE/SECEC Europe-Asia Travelling Fellow in 2013. It was a great honor for me to visit your country and to build unforgettable friendships with Japanese surgeons. The next SECEC 2014 will be in my homeland Istanbul, Turkey. I am looking forward to see you all in Istanbul next year. I would like to thank you all for everything. Arigatou gozaimasu!

2013 Europe-Asia Travelling Fellowship

Frank Martetschläger (University Hospital Rechts der Isar, Munich, Germany)

I would like to thank the JSS, the KSES and the SECEC for conducting an outstanding fellowship program like this, providing incredible scientific and cultural exchange at the same time. During my weeks of travel I met some of the most famous and skilled shoulder surgeons in the world and learned a lot from them. Thank you very much to all of you! Also I would like to thank you very much for the great friendship and hospitality during my time in your country. This was outstanding



写真左: Kerem Bilsel 先生 写真右: Frank Martetschläger 先生

and it made the entire trip and unforgettable experience for me.

It was a great honor and pleasure being with you in Japan and I hope to see you all again in the future – in Asia or in Europe! The upcoming SECEC meeting held in Istanbul, Turkey, September 2014 would be a great chance – so see you all in Turkey!

Again thank you very much for everything. Let us stay in touch! Arigatou gozaimasu!

▶ 財務委員会から会員の皆様へ

会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。

ご存じのように2012年から、日本肩関節学会は理事評議員制を導入し、井樋理事長の旗振りの元、2014年からは一般社団法人に移行する予定です。財務委員会は、一般社団法人として健全な財務の元に運営されるように活動することを目的に、2013年7月17日の理事会で設置が決定され、9月1日から担当理事：玉井和哉、委員長：岩堀裕介、委員：池上博泰、伊崎輝昌、井出淳二、高岸憲二、オブザーバー：小林勉、アドバイザー：吉井宏文（税理士）の構成員にて活動を開始いたしました。健全な財務を達成する上で、本年度中に二つの大きな決定事項がありました。それはJournal of Shoulder and Elbow Surgery (JSES) のSponsoring Societyとしての地位を維持していくための年会費の値上げと、経費削減の軸となる雑誌「肩関節」のオンライン化です。この二つの件に関しましては、すでに会員の皆様には二回ご報告させていただいておりますが、重要事項ですので、当委員会から会員の皆様にここで再度ご説明させていただきます。

【年会費値上げについて】

日本肩関節学会では2013年9月27日の会員総会におきまして、年会費を10,000円から15,000円に変更させていただきました。従来よりも増額となる5,000円は、日本肩関節学会の英文オフィシャルジャーナルであるJSESの年間オンライン購読料50米ドルに相当するものです。日本肩関節学会はこの雑誌のSponsoring Societyとなっておりますが、JSESのEditorial Boardでは、全会員が雑誌を購読することはSponsoring Societyの義務であるとの認識がなされております。日本肩関節学会が数年にわたって交渉した結果、全会員が購読するならば購読料は一人当たり50米ドル（オンラインのみ）ということで合意しました。現在、個人で購読（紙媒体とオンライン）しますと367米ドルかかりますので、皆様にも大きなメリットのある契約内容になっております。

日本肩関節学会は学会として会員数分のJSESオンライン購読料を出版社に支払います。したがってこの費用は学会の経費として全会員に公平に負担いただく性質のものと考え、年会費を増額させていただくことを決めた次第です。また2014年年頭に購読料の支払いが始まることから、2013年度（2013年7月1日）から新年会費を適用すること、また新入会員を含め2013年度の年会費としてすでに10,000円をお納めいただいた方には5,000円を追加徴収させていただくことになりました。何とぞ上述の経緯をお汲み取りいただき、新年会費の納入にご理解を賜りますようお願い申し上げます。

【雑誌『肩関節』のオンライン化について】

日本肩関節学会の2012年度の一般会計は、収入約2,100万円、支出約2,300万円でした。また『肩関節』のバックナンバー（約100万円分）を財産（売れ残り）として計上しますので、実質約300万円の赤字です。2010年度は約180万円、2011年度は約100万円の赤字で、支出超過は恒常的になっていると認識しております。

2012年度の支出の科目のうち最も大きいのは『肩関節』の印刷費（約600万円）で、次いで事務局人件費（約300万円）です。事務局人件費にはこの他に未払い金があり、2013年度予算では人件費を580万円と見積もっております。『肩関節』への投稿数も年々増加しており、また北米との交換留学も計画されておりますので、従来よりもさらに支出増となるものと予想しております。

日本肩関節学会としては新たな賛助会員を募集するとともに、ウェブ開催によって理事会・委員会費を節減するなど、収支の改善のために努力しております。しかし支出額から考えますと、『肩関節』をオンライン出版にすることによって雑誌の印刷費ならびに編集にかかる人件費を節減することが最も効果的です。紙媒体のメリットも十分承知しているつもりですが、すでにオンラインで読める『肩関節』をご利用の方も多いため、財務委員会から編集委員会に対して、『肩関節』の査読ならびに出版のオンライン化を提案したところです。

なお、上述の通り、今回の会費値上げはJSESの購読料納入のためであり、『肩関節』出版をはじめとするすべ



での学会活動は、従来と同じ年会費 10,000 円でまかなう必要があることをご理解いただければ幸いです。

このほか、財務委員会は、今後も学会の過去の財務状況を精査して将来の予測を行い、学会の運営の経費節減と増収の方策を検討し、各委員会に協力を要請していきたいと思っております。会員の皆様のお役に立てるように活動していきたい所存ですので、宜しくお願い致します。

日本肩関節学会財務委員会

担当理事：玉井和哉

委員長：岩堀裕介

委員：池上博泰，伊崎輝昌，井出淳二，高岸憲二

オブザーバー：小林勉

アドバイザー：吉井宏文（税理士）

▶ 事務局からのお知らせ

現在事務局のメールシステムに不具合が生じており、複数の会員よりメールの送受信ができないなどのトラブルが報告されております。そこでこの度、事務局のメールサーバーを移転しシステムを改変することと致しました。旧アドレスは 2014 年 1 月 31 日をもって使用不能となりますことをご承知お祈いします。

皆様におかれましてはお手数をおかけしますが、今後の事務局への連絡について、以下のメールアドレスを使用して頂きますようお願い申し上げます。

office@shoulder-s.jp

なお、会員の皆様には、今後の当学会の情報を発信させていただくためにも、引き続きメールアドレスのご登録にご協力頂けますよう、お願い申し上げます。

(※メールアドレスは下記 URL よりご登録ください。)

<http://www.j-shoulder-s.jp/mail/>



編集

広報委員会

後記

松村昇

遅くなりましたが、明けましておめでとうございます。Newsletter 第二号編集の大任を拝し、一時はどうなるかと心配いたしました。無事発行までたどり着くことが出来て安心しております。本号では黒川前会長による第40回日本肩関節学会学術集会の総括、森澤次期学術集會会長の挨拶、日本肩関節学会・ヨーロッパ肩肘学会交換留学生の帰朝報告および日本印象記を掲載させていただきました。大変ご多忙の中、執筆にご協力いただいた先生方にこの場を借りて深謝いたします。

広報委員会では学会員向けNewsletterの発行を毎年1月と7月に予定しております。今後Newsletterで取り上げてほしい項目などご意見がありましたら、ぜひお聞かせ下さい。また学会ホームページの一層の充実を目指して努力しております。会員の皆様からホームページの変更に関する意見も募集しておりますので、広報委員会までご一報ください。どうぞよろしく願いいたします。

